

---

# ANDROID

勝

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ  
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。  
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また  
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ  
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範  
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し  
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ANDROID

### 【ZEND】

Z3726M

### 【作者名】

勝

### 【あらすじ】

先進国首脳会議に出されたビデオと空軍で起きた事件

## 空軍の事件

先進国首脳会議 アメリカ

「Let's watch this movie.」と、オバマ大統領が言った。そして、秘書が一本のビデオを出した。そこに映るものは人間の領域を超える物が映っていた。

「数日前、我らの空軍にこれが現れました。」

数日前 アメリカ軍空軍基地

バラバラツー——。一台のヘリが飛ぶ。

「管制塔 ヘリです。」

「何? どこの軍だ?」

「分かりません。謎のマークです。」

すると管制塔が

「そこのへり。止まりなさい!」注意するもきかない

「管制塔、発砲許可を」

「了解」

すると、管制塔は言葉を失った。そこにはヘリと並び巨体を変身させ、まるでロボットの様な物が立っている。

ズダダダダダ。銃声がなるも戦車が爆音を轟かせるも無駄。一人の兵士が必死に闘う。彼の名前はリード・チャードー等兵。全兵士が死ぬも彼は生き残った。

先進国首脳会議 同日 数時間前

その少年は見てはならいもの見てしまった。

## 氷河の中のテクノロジー

1674年 南極点

吹雪が吹く中歩く老人。彼の名前はグラーン・リスト。研究者だ。彼は近頃落ちた隕石の調査にきたのだ。ちょうど隕石が飛来したあたりにさしかかった。カツツ、カツツと氷河を削る。すると、まるで機械のような物で溶けた。変わった道が続いていた。無論グラーンはその道を歩いて行つた。その先には凍りきつた機械のような生命体があつた。

「これは一体?」やはり彼も人間だ。その生命体に触れてしまった。起動音のようなものが聞こえたがとくに変化は無かつた。しかし、そこには血を流しながら死んでいた。そして彼の持つていた手帳には見た事も無い言語のようなものが刻まれていた。彼の遺体もその生命体も回収された。しかしその手帳は遺族に返された、それから300年も先にある子孫が初めてその謎の言語を見てしまう・・・

僕は冴えない高校生チェスト・リストだ。そして、僕は今日見ていたらない物を見てしまった。

「じゃあ、僕の先祖の遺体は今は無いんだね。」

「ああ、あつたとしてももう数百年も前の話だからね・・・でもその先祖の持っていた

手帳ならある」と僕の祖父が手渡した。まじまじと見ていると携帯の発信音が鳴り響く。

「待つて待つて」祖父がそういうて部屋から出て行つた。飽きて来た頃に偶然開けてしまった。

そのページ・・・そこには全く見た事のない文字が一つ、三つ並んでいて。そして、僕はなぜか

そのページを切り取つてしまつた。ドアが開いて祖父が帰つて來た。そして、手帳を手渡しその場を去つた。そして、愛車の洗車に向かつた。そして、ワックスもかけ、中も掃除しドライブに出かけた。

そして、僕はこの後言葉にならないほどあり得ないものを見てしまう。

## 自分の運命

戦闘機が飛ぶ・・・。チエストの走らせる車の上空を迂回しかけた頃、突然戦闘機は変身した。

すると、それを見たかの様にチエストの車も変身した。

「うわっ！」無論驚くチエスト。すると、車はビートと名乗った。そして、ビートは腕から

剣を出した。火花を散らしながら、ぶつかり合つ劍と劍・・・。あきれたようにビートは銃を出し、撃つ。それでも倒す事を出来ないビートは肩に隠した口ケツトランチャーを打ち込み敵は全身粉々に壊れてしまった。

「す・・すげえ！」

その夜

中々の豪邸に住んでいる。しかし家にある噴水が壊れ、大きな足音が聞こえた。外を見ると見慣れない車達・・・

## ヴァイルコイル

その見慣れない車達がビートの様に変身した。も慣れてしまつたチエストは小声で怒鳴つた。

「何してるんだ！母さん達が起きたらどうするんだ！！」

「チエスト・リストだな。こっちに来い」チエストはしぶしぶ下に降りて行つた。

ガンツ！何かの壊れる音。

「なんだ？あ、壊れた。」

裏路地

「で、何だ？」不満そうに聞く。

「まずは自己紹介からだ。俺はリール・グローンだ。よろしく

「俺はガチエットだよー」出しゃばるガチエット。

「つるさいぞ！」怒るリール。

「へーい」

「で？何の用？」今にも帰りそつたチエスト。

「実は・・・」

## 祖先の血

「実は君は狙われてる……」「深刻な話だつた。

「えつ？どうして」そしてリールが次の言葉を発しようとした時、「グラッグセクターだ抵抗するな」アメリカーの裏特殊部隊グラッドセクター。ビート、

リール、ガチエット、またそのほかの物も闖つた。しかし、グラッドセクターも甘くなかった。

ヴィルコイルの一人ビートがグラッドセクターの罠にかかり、捕らえられてしまった。

「連れて行け」

「待つてくれ。それは俺の大切な友達なんだ！頼む……」しかし、連れてかかるビート……

次の日

「チヒスト・・チヒスト」聞こえる声……。

「はつ。」そこは公園だった。

「さ、行くぞ」

「えつどこへ？」リールに聞くチヒスト。

「NORADだ。そこにはビートもいる。そして……」「ごまかすリール。

「えつ？」

## NORADの秘密

NORAD特殊押収品取り締まり基地橋に捕まるガチャエット。彼らは、今捕まつたビートを助けるためにNORADの基地にいた。

「すげえ・・・」広大な土地の基地に驚く一同。

「はつ！そりだビートは？！」今にも走り出そりとするチヒストを一人の兵士が止めた。

彼はライリー・デュエル一等兵。

「あれ・・・」じつりを（アンドロイド達）を見ても驚かないんですね・・・」

「あ・・・ははつ・・・そりやあ田の前でみたよ・・・」そり実は彼は空軍に襲撃したアンドロイドと鬭つた。

最後の兵士は彼だった。そして、中に入る一同。冷凍されているビートを解凍した。

しかし、同日<sup>スパイ</sup>諜報型アンドロイドがここに着ていた。そんな事も知らず中に

入る。そこには、大きなキューブがあつた。それには謎の文字・・・。

「なにこれ？」

「我々にも分からないと答えるNORAD」

「・・・・。」黙り込むアンドロイド達

「え、何？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3726m/>

---

ANDROID

2010年10月10日06時42分発行